



「健口から広がるWell-being ー セラミッククラウンの可能性と歯科技工士の役割 ー」

医療法人 志朋会 やまむら総合歯科・矯正歯科
・ Innovation member
・ 技工部マネージャー

中 川 透

近年、歯科医療における補綴治療は、単に欠損部を補填することにとどまらず、患者の生活の質（QOL）や心身の健康、さらには社会的なつながりにまで影響を及ぼすものとして捉えられている。その中で「健口」の概念は、口腔の健康が全身の健康やウェルビーイングへと広がる出発点であることを示している。

セラミッククラウンは、審美性と機能性を兼ね備えた補綴装置として進化を遂げ、患者の笑顔や自信を取り戻す重要な治療手段となっている。しかし、その価値を最大限に引き出すためには、歯科医師と歯科技工士との緊密な連携、そして歯科技工士自身の高度な知識と技術が不可欠である。

本発表では、歯科技工士がチーム医療の一員として果たす役割に焦点を当てるとともに、セラミストとして日々挑戦を続けている「シングルセントラル」への取り組みを紹介する。さらに、その実践がどのように患者のウェルビーイングへとつながっているのかを考察し、補綴治療が健口長寿社会の実現に果たす可能性について述べる。